

ここが聞きたい!

いっぱん

労働寿命の延長が 生きがいにつながっていく

内田 勇 議員

町長 健康で働ける寿命の延伸を図っていく



問 超高齢化時代を迎えても、高齢者に住みなれた地域で医療、介護、住宅福祉サービスなど一体的に提供する仕組みが求められており、慢性疾患を抱える人の生活をいかに支援していくか問われています。

答 野原健康福祉課長 奥出雲町老人福祉計画に基づいて、平成24年度から28年度の計画で住みなれた地域で可能な限り継続して生活ができるように地域包括ケアの考え方で策定している。

平成26年度には、第6期介護保険事業計画の策定や老人福祉計画の見直しを行い、在宅医療・介護連携の推進、生活支援

サービスの充実強化を検討する予定だ。

問 地域包括ケアシステムは、一人一人に光りを当てる、一人一人を大切にしている制度であり、医療機関や介護施設等で患者情報を共有し、患者に寄り添う体制について伺う。

答 内田健康づくり推進室長 島根県が実施している医療連携ITシステムまめネットで病院と病院、病院と診療所を主に接続している。

平成26年度、27年度にわたり、介護施設、訪問看護ステーション、調剤薬局等への接続で地域医療の充実を図る。

問 家族の介護や看病に携わる人、ケアラーの約3割が70歳以上という高齢介護の実態もあり、ケアされている人と共倒れするリスクも高まっているが、町独自の介護者支援制度の創設を。

答 野原健康福祉課長 介護保険事業の中で、家族介護支援特別事業で

高齢者を在宅で介護している家族に介護用品、たん吸引機を支給したり、過去1年間介護保険サービスを利用していない方を対象に年額10万円を支給する事業もあるが、いずれも介護認定3以上の町民税非課税世帯の方が対象となる。

問 健康長寿は、すべての人の願いである。長野県が全国トップレベルの長寿県になった理由は、高齢者の高い就業率がある。生きがいが健康長寿につながるかと考えるが。

答 生きがいを持って自分のために、あるいは他者のために健康で元気に生活できることが重要な。地域社会や人のためになる活動をするのが大事である。

問 元気で労働できるまで働くことが健康寿命につながり、寝たきりゼロを目指すことになる。

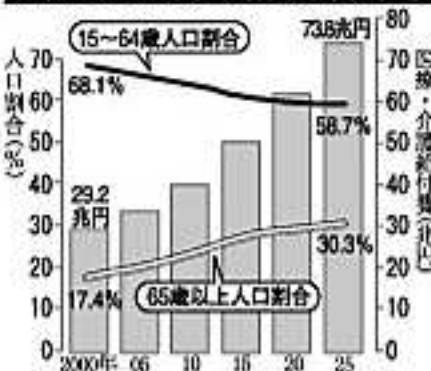
労働寿命の延長が生きがいにつながっていく。

答 健康寿命というのは健康の質を問い、労働寿命は、何のために、何をやるために働くかだが、高齢者になっても働けるということは極めて大事である。奥出雲町元気づけラン21を推進し、健康で働ける寿命の延伸を図ってまいりたい。

問 がん検診の無料クーポン券配布者の未受診者に対し受診勧奨制度「コール・リコール」の実施を。

答 内田健康づくり推進室長 未受診者の台帳を整備し26年度、乳がんと子宮頸がんについて実施する。

日本の人口と医療・介護給付費の推移



総務省・厚生労働省のデータから